

千石荘の昆虫（2014-2015 年度調査）

岩崎 拓（貝塚市立自然遊学館）

はじめに

貝塚市の中央部において里山里地の景観が残されている千石荘では、2005年と2006年、および2011年から2013年にかけて定期的な昆虫調査が行われた（岩崎、2016b など）。2014年と2015年も継続して調査を行ったので、ここに報告する。両年の簡単な速報はすでに季刊誌「自然遊学館だより」で報告済みである（岩崎、2016c など）。

調査方法

貝塚市名越、橋本、および熊取町七山北にまたがる全長約1.2kmの周回コースを設定し（図1）、2014年と2015年の4月から12月まで、月に1回のペースで、各年合計9回、雨の日を避けて調査を行った。千石荘調査地は、メッシュコード（環境庁、1997）が51354299、標高は約45～65mの間である。

調査ルートは、2011年度からと同じで、千石荘ロータリー付近から切通しを南西方向に抜け、水田地帯の中を南下し、ボタン池の土手を経て、雑木林に入り、牛神池の東辺を通過し、スタート地点へ戻るコースを設定した。調査コース中の大井谷池周辺（図2）、林内（図3）、および牛神池の景観を示した（図4）。そのコースを約2時間かけて歩き、主に見取り法を用い、鳴き声で判断できる場合は記録に加えた。

大阪府レッドリストは、調査期間中の2014年に改訂され（大阪府、2014）、本稿では改定後のリストに則って記述を行った。

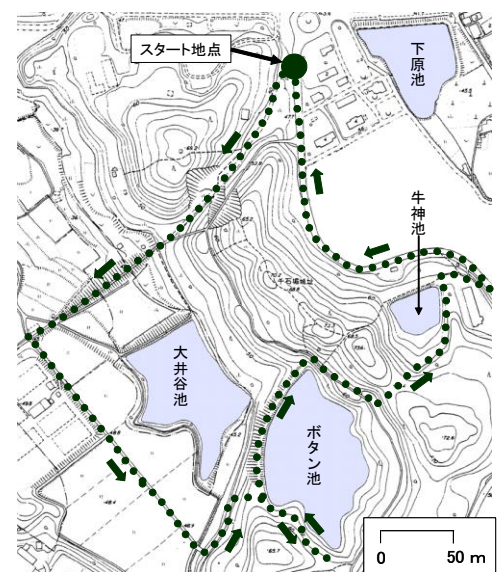


図1. 千石荘における昆虫調査ルート

点線が歩行ルート（全長約1.2km）、矢印が進行方向を示す。



図2. 大井谷池周辺の景観
(2015年7月2日)



図3. 林内の景観
(2015年6月4日)



図4. 牛神池の景観
(2014年7月6日)

結果および考察

2014年と2015年の結果を、主な目ごとに記述した後、注目すべき種についてまとめた。

1. トンボ目

2014年は4科11種、2015年は5科14種のトンボが確認された(表1、2)。このうち、2014年に確認されたナニワトンボ(図5)は、大阪府レッドリストにおいて絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。本調査の記録上では2006年以降の確認になるが、自然遊学館の標本としては当地産の2008年採集のものがある。また、2015年に確認されたヨツボシトンボは、一連の調査の記録上では初確認となるが、地元で調査を続けている方に、これまで確認されたことがあると伺った。



図5. ナニワトンボ
(2014年9月16日)

ヨツボシトンボと同じく、準絶滅危惧に指定されているキイトンボとベニイトンボは、両年とも、確認された。これまでと同じく、キイトンボの個体数の方が多く、出現期間中は、ほぼ毎回の調査で確認された。過去に当地で確認されて最近の記録がない種の代表はナツアカネで、2005年の確認が最後になっている。

表1. 2014年4月から12月にかけて千石荘において確認されたトンボ目

科	種	学名	調査月 調査日	4月 9日	5月 8日	6月 7日	7月 6日	8月 12日	9月 16日	10月 7日	11月 13日	12月 2日
アオイトトンボ科	アオイトトンボ	<i>Lestes sponsa</i>						○	○			
イトトンボ科	キイトンボ	<i>Ceragrion melanurum</i>			○	○	○	○				
	ベニイトンボ	<i>Ceragrion nipponicum</i>				○	○					
	クロイトトンボ	<i>Cercion calamorum calamorum</i>		○		○						
ヤンマ科	クロスジギンヤンマ	<i>Anax nigrofasciatus nigrofasciatus</i>						○				
トンボ科	シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>			○	○	○	○				
	オオシオカラトンボ	<i>Orthetrum triangulare melania</i>						○				
	リスアカネ	<i>Sympetrum infuscatum</i>							○	○		
	ナニワトンボ	<i>Sympetrum gracile</i>						○	○			
	ウスバキトンボ	<i>Rhyothemis fuliginosa</i>						○	○	○		
	チョウトンボ	<i>Pantala flavescens</i>					○					

表2. 2015年4月から12月にかけて千石荘において確認されたトンボ目

科	種	学名	調査月 調査日	4月 16日	5月 6日	6月 4日	7月 2日	8月 4日	9月 1日	10月 6日	11月 4日	12月 1日
カワトンボ科	ハグロトンボ	<i>Calopteryx atrata</i>					○					
アオイトトンボ科	アオイトトンボ	<i>Lestes sponsa</i>						○		○		
イトトンボ科	キイトンボ	<i>Ceragrion melanurum</i>			○	○	○	○	○	○		
	ベニイトンボ	<i>Ceragrion nipponicum</i>					○	○	○			
	クロイトトンボ	<i>Cercion calamorum calamorum</i>			○	○	○					
ヤンマ科	クロスジギンヤンマ	<i>Anax nigrofasciatus nigrofasciatus</i>			○	○						
	ギンヤンマ	<i>Anax parthenope julius</i>								○		
トンボ科	シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>			○	○	○	○	○	○		
	オオシオカラトンボ	<i>Orthetrum triangulare melania</i>					○	○				
	ショウジョウトンボ	<i>Crocothemis servilla mariannae</i>				○						
	リスアカネ	<i>Sympetrum infuscatum</i>						○	○	○		
	ヨツボシトンボ	<i>Libellula quadrimaculata asahinai</i>			○	○						
	コシアキトンボ	<i>Pseudothemis zonata</i>				○	○	○	○			
	ウスバキトンボ	<i>Rhyothemis fuliginosa</i>					○	○	○			

2. バッタ目

2014年は9科32種、2015年は9科31種が確認され、種構成はほぼ同じであった(表3、4)。大阪府レッドリストで準絶滅危惧に指定されているナツノツヅレサセコオロギは、兩年とも夏季に鳴き声が確認されたが、標本は得られていない。草原性の種であるショウリョウバッタモドキは、2005年以来確認されず、前回の報告では、チガヤが優占するような開けた草原の減少が原因ではないかと推測されたが、2015年の調査でまとまった個体群が生息する場所が確認された(図6)。



図6. ショウリョウバッタモドキ
(2015年11月4日)

表3. 2014年4月から12月にかけて千石荘において確認されたバッタ目

「△」印は幼虫による確認、「○」印は成虫による確認、「鳴」印は鳴き声による確認であることを示している。

科	種	学名	調査月 調査日	4月 9日	5月 8日	6月 7日	7月 6日	8月 12日	9月 16日	10月 7日	11月 13日	12月 2日
ツユムシ科	セスジツユムシ	<i>Ducetia japonica</i>							○	○	○	
キリギリス科	クビキリギリス	<i>Euconocephalus thunbergi</i>		○								
	クサキリ	<i>Ruspolia lineosa</i>						△				
	オナガササキリ	<i>Conocephalus gladiatus</i>							○	○		
	ホシササキリ	<i>Conocephalus maculatus</i>							○			
	ウスイロササキリ	<i>Conocephalus chinensis</i>				△			○	○		
	キリギリス	<i>Gampsocleis buergeri</i>		△	△	△	△鳴	○	鳴			
	ヤブキリ	<i>Tettigonia orientalis</i>		△	△	△						
コオロギ科	ヒメギス	<i>Metroptera hime</i>				△	鳴					
	ツヅレサセコオロギ	<i>Velarifictorus mikado</i>							鳴	鳴		鳴
	ナツノツヅレサセコオロギ	<i>Velarifictorus grylloides</i>					鳴					
	モリオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus sylvestris</i>							鳴	鳴		
	ハラオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus campestris</i>							鳴	鳴	鳴	
	エンマコオロギ	<i>Teleogryllus emma</i>						鳴	○	鳴	○	
マツムシ科	コガタコオロギ	<i>Velarifictorus ornatus</i>				鳴						
	アオマツムシ	<i>Trujalia hibinonis</i>						△	鳴	鳴		
	カンタン	<i>Oecanthus longicauda</i>							鳴	鳴		
ヒバリモドキ科	ヒロバネカンタン	<i>Oecanthus euryelytra</i>								鳴		
	クサヒバリ	<i>Sivistella bifasciatum</i>							鳴	○	鳴	
	キンヒバリ	<i>Natula matsuurai</i>			鳴	鳴	鳴					
	カヤヒバリ	<i>Natula pallidula</i>			鳴	鳴	鳴					
	カヤヒバリ属	<i>Natula sp.</i>										△
	マダラスズ	<i>Dianemobius nigrofasciatus</i>					鳴	鳴	鳴	鳴		
	シバズ	<i>Polionemobius mikado</i>								鳴		
カネタタキ科	カネタタキ	<i>Ornebius kanetataki</i>							鳴	○		
ヒシバッタ科	ヒシバッタ属	<i>Tetrix sp.</i>						△				
オンブバッタ科	オンブバッタ	<i>Atractomorpha lata</i>							△		○	
バッタ科	ツチイナゴ	<i>Patanga japonica</i>			○	○		△	△	△	○	
	ショウリョウバッタ	<i>Acrida cinerea antennata</i>						△	○	○		
	トノサマバッタ	<i>Locusta migratoria</i>							○	○		
	クルマバッタモドキ	<i>Oedaleus infernalis</i>						△	○			
	イボバッタ	<i>Trilophidia japonica</i>							○			

表4. 2015年4月から12月にかけて千石荘において確認されたバッタ目

「△」印は幼虫による確認、「○」印は成虫による確認、「鳴」印は鳴き声による確認であることを示している。

科	種	学名	調査月 調査日	4月 16日	5月 6日	6月 4日	7月 2日	8月 4日	9月 1日	10月 6日	11月 4日	12月 1日
ツユムシ科	セスジツユムシ	<i>Ducetia japonica</i>									○	○
キリギリス科	クサキリ	<i>Ruspolia lineosa</i>						△				
	ササキリ	<i>Conocephalus melaenus</i>							○	○		
	オナガササキリ	<i>Conocephalus gladiatus</i>						△		○	○	鳴
	ホシササキリ	<i>Conocephalus maculatus</i>					○				○	
	ウスイロササキリ	<i>Conocephalus chinensis</i>							○	○		

表4 (つづき). 2015年4月から12月にかけて千石荘において確認されたバッタ目

「△」印は幼虫による確認、「○」印は成虫による確認、「鳴」印は鳴き声による確認であることを示している。

科	種	学名	調査月 調査日	4月 16日	5月 6日	6月 4日	7月 2日	8月 4日	9月 1日	10月 6日	11月 4日	12月 1日
キリギリス科	キリギリス	<i>Gampsocleis buergeri</i>			△	△	○	○	○	鳴		
	ヤブキリ	<i>Tettigonia orientalis</i>		△	△	△	○					
コオロギ科	ツツレサセコオロギ	<i>Velarifictorus mikado</i>								鳴		
	ナツノツツレサセコオロギ	<i>Velarifictorus grylloides</i>				鳴	鳴					
	モリオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus sylvestris</i>							鳴	鳴		
	ハラオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus campestris</i>							鳴	鳴	鳴	鳴
	エンマコオロギ	<i>Teleogryllus emma</i>					△		○鳴	鳴	鳴	
マツムシ科	アオマツムシ	<i>Trujalia hibernis</i>							鳴	鳴		
	マツムシ	<i>Xenogryllus marmoratus marmoratus</i>							○	○鳴		
	カンタン	<i>Oecanthus longicauda</i>								鳴	○鳴	
ヒバリモドキ科	クサヒバリ	<i>Svistella bifasciatum</i>							鳴	△○鳴	鳴	
	キンヒバリ	<i>Natula matsuurai</i>		鳴		鳴	鳴		鳴			
	カヤヒバリ	<i>Natula pallidula</i>		鳴	鳴	鳴	鳴					
	マダラスズ	<i>Dianemobius nigrofascatus</i>					○		○	鳴	鳴	
	シバズ	<i>Polionemobius mikado</i>					○				鳴	鳴
カネタタキ科	カネタタキ	<i>Ormebius kanetataki</i>						鳴	鳴	鳴	鳴	
ヒシバッタ科	ハラヒシバッタ	<i>Tetrix japonica</i>				○						
オンブバッタ科	オンブバッタ	<i>Atractomorpha lata</i>								○	○	
バッタ科	ツチイナゴ	<i>Patanga japonica</i>		○	○	○	○		△	△○	○	○
	コバネイナゴ	<i>Oxya yezoensis</i>						○	○	○		
	シヨウリョウバッタ	<i>Acrida cinerea antennata</i>				△	△	○	○	○		
	シヨウリョウバッタモドキ	<i>Gonista bicolor</i>							○		○	
	クルマバッタモドキ	<i>Oedaleus infernalis</i>							○			
	マダラバッタ	<i>Aiolopus thalassinus tamulus</i>								○		
	イボバッタ	<i>Trilophidia japonica</i>							○			

3. カマキリ目

オオカマキリは両年とも、ほとんどの調査日において卵囊、幼虫、成虫のいずれかが常時確認され、カマキリ目の優占種となっている。その他、ハラビロカマキリ、チョウセンカマキリ、ヒメカマキリの確認個体数は僅かであった。

2015年もオオカマキリの確認個体数が最多で、次いで、ハラビロカマキリ、コカマキリ、チョウセンカマキリの順で個体数が多かった。その他、9月にサツマヒメカマキリの若齢幼虫が1個体確認された(図7)。



図7. サツマヒメカマキリ若齢幼虫
(2015年9月1日)

4. カメムシ目

鳴き声で確認したセミは、両年とも、ニイニイゼミ、アブラゼミ、クマゼミ、ツクツクボウシ、チッチゼミの5種であった。この種構成は一連の調査において変わりなく、2000年代の初めに確認されていたハルゼミの鳴き声は聞かれなくなってしまった。

クスベニヒラタカスミカメは、2015年に南大阪に侵入した外来カスミカメで(安永、2016)、11月の時点で貝塚市の臨海部を中心に確認されていたが(白木・岩崎、2017)、千石荘では12月の調査で初めて確認された(図8)。



図8. クスベニヒラタカスミカメ
(2015年12月1日)

その他、注目種のオオキンカメムシは今回も確認されず、2005年が最後の確認年になっている。2014年7月6日に確認されたクサビヨコバイは、自然遊学館に標本がなかった種である。

5. コウチュウ目

カブトムシは兩年とも確認されていて、2015年には昼間に樹液を吸うオス成虫が確認された(図9)。ヒラタクワガタは、一連の調査では2006年以来確認されていないが、地元で調査されている方の話では、夜間に樹液に来ているそうである。2014年5月8日に確認されたツヤケシハナカミキリと、2015年4月26日に確認されたコブノコギリゾウムシは、いずれも自然遊学館に標本がなかった種である。



図9. カブトムシ
(2015年8月4日)

6. ハエ目

注目種のハチモドキハナアブは2013年の調査まで毎年確認されていたが、2014年と2015年は確認されなかった。2014年7月6日に確認されたスキバツリアブ、2015年9月1日と10月6日に確認されたウリウロコタマバエのゴール、2015年12月1日に確認されたアカムシユスリカは、自然遊学館に標本がなかった種である。

7. チョウ目

チョウ類に関しては、2014年は5科19種(表5)、2015年は5科30種(表6)が確認された。比較可能な2011年以降の種数を比べると、2011年25種、2012年29種、2013年27種と推移してきたので、2014年の19種はかなり低い値であり、キタテハ、ウラナミシジミ、ツバメシジミ、ベ

表5. 2014年4月から12月にかけて千石荘において確認されたチョウ類

科	種	学名	調査月 調査日	4月 9日	5月 8日	6月 7日	7月 6日	8月 12日	9月 16日	10月 7日	11月 13日	12月 2日
アゲハチョウ科	ナミアゲハ	<i>Papilio xuthus</i>			○			○	○			
	ナガサキアゲハ	<i>Papilio memnon thunbergii</i>			○							
	アオスジアゲハ	<i>Graphium sarpedon nipponum</i>			○	○						
シロチョウ科	キタキチョウ	<i>Eurema mandarina</i>		○	○	○	○		○	○		
	モンシロチョウ	<i>Pieris rapae crucivora</i>		○	○	○	○	○		○	○	
タテハチョウ科	ヒメウラナミジャノメ	<i>Ypthima argus</i>			○		○	○	○			
	ヒカゲチョウ	<i>Lethe sicelis</i>					○	○	○			
	クロヒカゲ	<i>Lethe diana diana</i>					○					
	サトキマダラヒカゲ	<i>Neope goschkevitschii</i>			○		○	○	○			
	コムスジ	<i>Neptis sappho intermedia</i>			○	○			○			
	アサマイチモンジ	<i>Ladoga glorifica</i>					○		○			
	ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius hyperbius</i>			○				○	○		
	テングチョウ	<i>Libythea celtis celtoides</i>		○		○						
シジミチョウ科	ウラギンシジミ	<i>Curetis acuta paracuta</i>						○		○		
	ヤマトシジミ	<i>Zizeeria maha argia</i>						○	○	○		
セセリチョウ科	ダイミョウセセリ	<i>Daimio tethys</i>				○						
	イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata guttata</i>							○	○		
	キマダラセセリ	<i>Potanthus flavum flavum</i>					○		○			
	ホソバセセリ	<i>Isoteinon lamprospilus lamprospilus</i>					○					

表6. 2015年4月から12月にかけて千石荘において確認されたチョウ類

科	種	学名	調査月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
			調査日	16日	6日	4日	2日	4日	1日	6日	4日	1日	
アゲハチョウ科	ナミアゲハ	<i>Papilio xuthus</i>				○		○	○	○			
	ナガサキアゲハ	<i>Papilio memnon thunbergii</i>			○		○	○					
	クロアゲハ	<i>Papilio protenor demetrius</i>			○	○							
	モンキアゲハ	<i>Papilio helenus nicconicolens</i>			○								
	アオスジアゲハ	<i>Graphium sarpedon nipponum</i>			○	○	○	○					
シロチョウ科	キタキチョウ	<i>Eurema mandarina</i>				○	○	○	○	○	○		
	モンシロチョウ	<i>Pieris rapae crucivora</i>		○	○	○	○			○	○		
タテハチョウ科	ヒメウラナミジャノメ	<i>Ypthima argus</i>			○		○		○				
	ヒメジャノメ	<i>Mycalesis gotama fulginia</i>				○							
	ヒカゲチョウ	<i>Lethe sicelis</i>				○							
	サトキマダラヒカゲ	<i>Neope goschkevitschii</i>		○	○	○		○	○				
	コムスジ	<i>Neptis sappho intermedia</i>			○	○	○	○	○	○			
	ホシミスジ	<i>Neptis pryri pryri</i>						○					
	キタテハ	<i>Polygonia c-aureum</i>					○				○		
	イシガケチョウ	<i>Cyrestis thyodamas mabella</i>				○							
	ゴマダラチョウ	<i>Hestina japonica</i>						○					
	ヒメアカタテハ	<i>Cynthia cardui</i>										○	
	ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius hyperbius</i>				○		○		○			
	テングチョウ	<i>Libythea celtis celtoides</i>		○		○		○					
	アサギマダラ	<i>Parantica sita nipponica</i>								○			
	シジミチョウ科	ウラギンシジミ	<i>Curetis acuta paracuta</i>								○		
		ムラサキシジミ	<i>Narathura japonica japonica</i>							○	○		○
ヤマトシジミ		<i>Zizeeria maha argia</i>						○	○	○			
ウラナミシジミ		<i>Lampides boeticus</i>									○		
ツバメシジミ		<i>Everes argiades hellotia</i>				○	○						
セセリチョウ科	ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas daimio</i>			○		○	○					
	ダイミョウセセリ	<i>Daimio tethys</i>			○								
	イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata guttata</i>							○	○			
	キマダラセセリ	<i>Potanthus flavum flavum</i>				○			○				
	コチャバナセセリ	<i>Thoressa varia</i>					○						

ニシジミといった普通種が確認されなかった原因は不明である。

大阪府レッドリストで準絶滅危惧に指定されているホソバセセリは、貝塚市内では和泉葛城山の山頂付近で確認されることが多かったが、千石荘でも生息が確認された（図10）。

ガ類では、2015年12月1日に確認されたウスアオリングガが準絶滅危惧に指定されている。同年の6月8日に千石荘ピクニックセンター跡地で確認されたものが自然遊学館としての初記録で、今回の確認が2例目となった。

注目種では、2011年まで確認されていたツマキチョウが2012年以降確認されていないことが気付きである。

2014年6月7日に確認されたハゴロモヤドリガ（幼虫）はブチヒシウンカの腹部に付着していたものである（図11）。その他、2014年8月12日に確認されたクロオビアツバ、2015年5月6日に確認されたイヌビワハマキモドキを加えた3種が、これまで自然遊学館に標本がなかった種である。



図10. ホソバセセリ
(2014年7月6日)



図11. ハゴロモヤドリガ幼虫
(ブチヒシウンカの腹部に付着)
(2014年6月7日)

8. ハチ目

注目種では、ニホンミツバチが2015年5月6日と9月1日に確認された。ニッポンヒゲナガハナバチは、2014年と2015年とも確認されず、2006年の確認が最後となっている。

2015年8月4日にニイニイゼミの死体に群がっていたトゲアリは、これまで自然遊学館に標本がなかった種で(図12:岩崎、2016a)、貝塚市産アリ類56種目となった。トゲアリは、クロオオアリやムネアカオオアリの巣に一時的社会寄生をすることで知られている。



図12. トゲアリ
(2015年8月4日)

9. 大阪府レッドリスト種と注目種

2005年からの7年の調査で確認された大阪府レッドリスト種、および自然遊学館の注目種を表7にまとめた。図13~15に本文中で紹介しきれなかった大阪府レッドリスト種の画像を示した。

いずれの年も4月から12月まで調査を行ったが、2005年と2006年は月に3回の調査であるのに対して(12月は1回)、2011年以降は月に1回の調査なので、確認種に関しては正確な比較はできない。

注目種の中のコシロシタバは、2014年に行われた大阪府レッドデータブックの改定において、これまでの準絶滅危惧からランク外に移された種である。

表7. 千石荘において2005年、2006年、および2011年~2015年に行われた調査で確認された大阪府レッドリスト種および注目種

ランク	目	科	種	学名	調査年	2005年	2006年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	
絶滅危惧Ⅱ類	トンボ目	トンボ科	ナニワトンボ	<i>Sympetrum gracile</i>		○	○				○	○	
準絶滅危惧	トンボ目	イトトンボ科	ベニイトトンボ	<i>Ceragrion nipponicum</i>		○	○			○	○	○	
			キイトトンボ	<i>Ceragrion melanurum</i>		○	○	○	○	○	○	○	
		トンボ科	アキアカネ	<i>Sympetrum frequens</i>		○	○	○					
			ナツアカネ	<i>Sympetrum darwinianum</i>		○							
			ノシメトンボ	<i>Sympetrum infuscatum</i>		○	○	○	○				
			ヨツボシトンボ	<i>Libellula quadrimaculata asahinai</i>							○		
	バッタ目	コオロギ科	ナツノツツレサセコオロギ	<i>Velarifictorus grylloides</i>							○	○	
	チョウ目	セセリチョウ科	ホソバセセリ	<i>Isoteinon lamprospilus lamprospilus</i>							○		
		コブガ科	ウスアオリンガ	<i>Paracrama angulata</i>								○	
注目種	バッタ目	コオロギ科	クマスズムシ	<i>Sclerogryllus punctatus</i>						○			
			マツムシ科	マツムシ	<i>Xenogryllus marmoratus</i>		○	○	○	○	○	○	○
			バッタ科	ショウリヨウバッタモドキ	<i>Gonista bicolor</i>		○						○
		カマキリ目	ヒメカマキリ科	サツマヒメカマキリ	<i>Acromantis australis</i>			○	○	○		○	
		カメムシ目	キンカメムシ科	オオキンカメムシ	<i>Eucorysses grandis</i>		○						
		アミメカゲロウ目	クサカゲロウ科	アミメクサカゲロウ	<i>Nacaura matsumurae</i>		○	○	○	○	○		
			ラクダムシ科	ラクダムシ	<i>Inocellia japonica</i>				○				
		コウチュウ目	ハンミョウ科	コハンミョウ	<i>Cicindela specularis</i>				○		○		
			クワガタムシ科	ヒラタクワガタ	<i>Serrognathus platymelus</i>		○	○					
			コガネムシ科	カブトムシ	<i>Trypoxylus dichotomus</i>		○	○		○	○	○	
		ハエ目	ハナアブ科	ハチモドキハナアブ	<i>Monoceromyia pleuralis</i>		○	○	○	○	○		
	チョウ目	シロチョウ科	ツマキチョウ	<i>Anthocharis scolymus</i>		○	○	○					
			シジミチョウ科	ミズイロオナガシジミ	<i>Antigius attilia</i>				○		○		
			ヤガ科	コシロシタバ	<i>Catocala actaea</i>					○	○		
	ハチ目	コシトハナバチ科	ニッポンヒゲナガハナバチ	<i>Tetralonia nipponensis</i>			○						
ミツバチ科			ニホンミツバチ	<i>Apis cerana</i>				○				○	

2005年と2006年は月に3回、2011年~2015年は月に1回、調査を行った。
絶滅危惧のランクは、『大阪府レッドリスト2014』(大阪府、2014)による。



図 13. ベニイトトンボ
(2014年7月6日)



図 14. ヨツボシトンボ
(2015年5月6日)



図 15. ウスアオリンガ
(2015年12月1日)

最後に、本文中に和名のみで紹介した種に関して、2014年のリストを表8に、2015年のリストを表9に示した。

表8. 2014年4月から12月にかけて千石荘において確認された他の昆虫

「△」印は幼虫による確認、「○」印は成虫による確認、「鳴」印は、鳴き声による確認であることを示している。
カマキリ目に関しては、幼虫と成虫の個体数も示した。

目	科	種	学名	4月 9日	5月 8日	6月 7日	7月 6日	8月 12日	9月 16日	10月 7日	11月 13日	12月 2日
カマキリ目	カマキリ科	オオカマキリ	<i>Tenodera aridifolia</i>	卵囊	△1	△5	△14	△4	♂3	♂1♀3	卵囊	卵囊
		チョウセンカマキリ	<i>Tenodera angustipennis</i>				△2					
		ハラビロカマキリ	<i>Hierodula patellifera</i>					△1			♀1	
		ヒメカマキリ科	ヒメカマキリ	<i>Acromantis japonica</i>				△1				
		ヒメカマキリ属	<i>Acromantis</i> sp.					△1				
カメムシ目	セミ科	ニイニゼミ	<i>Platyleura kaempferi</i>				鳴	鳴	鳴			
		アブラゼミ	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i>					鳴				
		クマゼミ	<i>Cryptotympana fascialis</i>					鳴				
		ツクツクボウシ	<i>Meimuna opalifera</i>					鳴	鳴			
		チツゼミ	<i>Cicadetta radiator</i>						鳴			
		ヨコバイ科	クサビヨコバイ	<i>Athysanopsis salicis</i>				○				
		コウチュウ目	カミキリムシ科	ツヤケンハナカミキリ	<i>Anastrangalia scotodes</i>		○					
ハエ目	ツリアブ科	スキバツリアブ	<i>Villa limbata</i> □				○					
チョウ目	セミヤドリガ科	ハゴロモヤドリガ	<i>Epiricania hageromo</i>									
	ヤガ科	クロオビアツバ	<i>Antatha wilemani</i>					○				

表9. 2015年4月から12月にかけて千石荘において確認された他の昆虫

「△」印は幼虫による確認、「○」印は成虫による確認、「鳴」印は、鳴き声による確認であることを示している。
カマキリ目に関しては、幼虫と成虫の個体数も示した。

目	科	種	学名	4月 16日	5月 6日	6月 4日	7月 2日	8月 4日	9月 1日	10月 6日	11月 4日	12月 1日
カマキリ目	カマキリ科	オオカマキリ	<i>Tenodera aridifolia</i>	卵囊	卵囊 △1	△17	△12		△1 ♂5♀2	♂1♀6 卵囊	♀1	卵囊
		チョウセンカマキリ	<i>Tenodera angustipennis</i>								卵囊	
		ハラビロカマキリ	<i>Hierodula patellifera</i>			△6	△2			♀1 卵囊	卵囊	卵囊
		コカマキリ	<i>Statilia maculata</i>							♀4	♀1	
	ヒメカマキリ科	サツマヒメカマキリ	<i>Acromantis australis</i>					△1				
カメムシ目	セミ科	ニイニゼミ	<i>Platyleura kaempferi</i>				鳴	○鳴	鳴			
		アブラゼミ	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i>					○鳴	鳴			
		クマゼミ	<i>Cryptotympana fascialis</i>					○				
		ツクツクボウシ	<i>Meimuna opalifera</i>					○	鳴	鳴		
		チツゼミ	<i>Cicadetta radiator</i>						鳴	鳴		
		カスミカメムシ科	クスベニヒラタカスミカメ	<i>Mansoniella cinnamomi</i>								
コウチュウ目	ゾウムシ科	コブノコギリゾウムシ	<i>Ixalma dentipes</i>	○					○			
ハエ目	タマバエ科	ウリウロコタマバエ	<i>Lasioptera</i> sp.						ゴール	ゴール		
	ユスリカ科	アカムシユスリカ	<i>Tokunagayusurika akamusi</i>									○
チョウ目	ハマキモドキガ科	イヌビウハマキモドキ	<i>Choreutis japonica</i>		○							
	ヤガ科	ウスアオリンガ	<i>Paracrama angulata</i>									○
ハチ目	アリ科	トゲアリ	<i>Polyrhachis lamellidens</i>					○				

引用文献・参考文献

- 石井 実・青柳正人・岩崎 拓・中谷至伸・上田達也（1997） 貝塚市千石堀城址周辺の昆虫。「貝塚市自然環境調査報告書（1996年度）」、pp. 31-46、貝塚市立自然遊学館。
- 岩崎 拓（2006） 千石荘の昆虫Ⅰ. 貝塚の自然 第9号：1-11.
- 岩崎 拓（2008） 千石荘の昆虫Ⅱ（2006年度調査）. 貝塚の自然 第10号：24-35.
- 岩崎 拓（2013） 千石荘の昆虫（2011年度調査）. 貝塚の自然 第15号：5-14.
- 岩崎 拓（2015） 千石荘昆虫調査2014. 自然遊学館だより No.74：20-22.
- 岩崎 拓（2016a） トゲアリ. 自然遊学館だより No.78：5.
- 岩崎 拓（2016b） 千石荘の昆虫（2012-2013年度調査）. 貝塚の自然 第17号：74-87.
- 岩崎 拓（2016c） 千石荘昆虫調査2015. 自然遊学館だより No.81：16-19.
- 大阪府（2014） 「大阪府レッドリスト2014」. 48pp.、大阪府環境農林水産部みどり・都市環境室.
- 環境庁（1997） 都道府県別メッシュマップ 27 大阪府. 36pp.、環境庁自然保護局計画課自然環境調査室.
- 白木江都子・岩崎 拓（2017） クスベニヒラタカスミカメ. 自然遊学館だより No.82：1-2.
- 安永智秀・穆 怡然・長島聖大・山田量崇・高井幹夫（2016） 最近日本に侵入した外来カスミカメムシ：*Mansoniella cinnamomi*. *Rostria*, No. 60：17-20.

付図

毎月の調査後すぐに、自然遊学館の玄関横の掲示板、あるいは館内の里山コーナーに、調査結果を速報として貼り出した。それらを付図として掲載した。

「千石荘」昆虫調査速報（2014年4月）

2014年4月9日 天候：晴れ 調査者1名

クサイチゴ、クサノオウ、アケビ、ホトケノザ、アリアケスミなどの花が咲いていました。ツクシもまだ少し残っています。暖かくなり30種以上の昆虫が確認できましたが、虫のシーズンはこれから先といった感じでした。



チョウ目（チョウ類 3種）

キタキチョウ、モンシロチョウ、テングチョウの3種を確認しました。キタキチョウとテングチョウは成虫で冬を越します。1匹だけ見たテングチョウは、翅がボロボロでした。その他、キノコヒモミノガの囊（みの：幼虫）を、いつもの場所で確認しました。



キタキチョウ

バッタ目

クビキリギス、ヤブキリ幼虫、キリギリス幼虫の3種を確認しました。クビキリギスは成虫で冬を越します。クビキリギスは1匹だけでしたが、ヤブキリとキリギリスの幼虫はたくさんいて、例年よりふ化の平均日が早かったのかもしれない。



クビキリギス

カメムシ目

ヒメセダカカスミカメ、ヤニサシガメ幼虫、ミツボシツチカメムシの3種を確認しました。いずれも珍しい種ではありません。全体の種数から見れば、成虫で越冬する種の割合が高いカメムシ目の種数が3種というのは少ないと思います。



ヒメセダカカスミカメ

ハエ目

この時期はピロードツリアブのホバリング（静止飛翔）が目立ちます。アシトハナアブやハルササハマダラミハエも春先の常連です。写真はクサノオウの花に来ていたマダラメハエです。口の周りの広い範囲が白色で、花粉症対策でマスクをしているように見えます。



マダラメハエ

「千石荘」昆虫調査速報（2014年5月）

2014年5月8日 天候：晴れ 調査者1名

草ではクサノオウ、ホトケノザ、ヤブジラミなどの花が咲いています。牛神池では、池の中央に外来種のエフクレタヌキモの花が満開でした（右の写真）。水中では外来種のアサギフナが葉を広げていました。



チョウ目（チョウ類 9種）

ナガサキアゲハ、ナミアゲハ、アオスジアゲハ、キタキチョウ、モンシロチョウ、ヒメウラナミジャンノメ、サトキマダラヒカゲ、コムシジ、ツマグロヒョウモンなどの9種を確認しました。ガの幼虫ですぐに種名が分かったのは、ヒロバトガリエダシャクだけでした。



コムシジ

コウチュウ目

ピロウドコガネ、クロクシコメツキ、セボシジョウカイ、ヒメクロクビボソジョウカイ、ナミテントウ、ヒメクロオトソトミなど、いわゆる普通種が多く見られました。写真のツヤケシハナカミキリも普通種ですが、先にあげた種ほど多く見られません。



ツヤケシハナカミキリ

カメムシ目

アケビにベニキジラミが発生していました。ノイバラには写真のイバラヒゲナガアブラムシが、ヨモギにはアオヒメヒゲナガアブラムシが付いていました。その他、お馴染みのホシハラヒロヘリカメムシ、イトカメムシ、マルカメムシなどを確認しました。



イバラヒゲナガアブラムシ

ハチ目

この時期は、空中になわばりを作っているクマバチのホバリングが目立ちます。何度も撮影を試みましたが、とうとう良い写真が撮れませんでした。アリ類では、ウメマツオオアリ、トビイロケアリ、ハリフトシリアゲアリを確認しました。



クマバチ

「千石荘」昆虫調査速報（2014年6月）

2014年6月7日 天候：くもり 調査者1名

ヒメジョオンとドクダミの白い花、ヘビイチゴの赤い実が目立ちます。ヤブニッケイの花も咲いていました。水田には水が張られ、いかにも梅雨の時期といった風景になりました。



チョウ目（チョウ類 5種）

モンシロチョウ、キタキチョウ、コムシジ、テングチョウ、ダイミョウセセリの5種を確認しました。キノコヒモミノガの囊はかなり長くなっていました。アカザにたかっていたガはヨツモンキヌバコガでした。この時期に現れる世代の翅には紋がないようです。



ダイミョウセセリ

バッタ目

例年通り、キンヒバリとカヤヒバリが鳴いていました。その他、曇りで暗かったせいか、屋間からコガタコオロギが鳴いていました。ツチイナゴは成虫で、ヒメギス、キリギリス、ヤブキリ、ウスイロササキリは幼虫で確認されました。



ヤブキリ幼虫

カメムシ目

マルカメムシがクズの茎先に卵塊を産んでいました。フチヒシウンカの腹の先に白い物体が付着していました。ハゴロモヤドリガというガの幼虫です。体液を吸う寄生者で、セミに付くセミヤドリガと同じ仲間です。その他、シマサシガメやツヤクロカスミカメなどを確認しました。



フチヒシウンカ

コウチュウ目

ピロウドコガネ、マメコガネ、ニセキバニコハネジョウカイ、ナミテントウ、ナナホシテントウ、ヒメカメノコテントウ、クロウリハムシ、ハスジカツオゾウムシ、オジロアシナガソウムシなどは普通種ですが、右の写真のヒメトラハナムグリはそうとも言えません。



ヒメトラハナムグリ

付図1（左上）. 千石荘昆虫調査速報（2014年4月）

付図2（右上）. 千石荘昆虫調査速報（2014年5月）

付図3（左下）. 千石荘昆虫調査速報（2014年6月）

「千石荘」昆虫調査速報（2014年7月）

2014年7月6日 天候：曇り 調査者1名

田植えが終わりました。あまり雨は降りませんが、晴れの日も多くありません。花を咲かせている植物はわずかです。もうニイニゼミが鳴き始め、クヌギの樹液の量もかなり増えてきました。



チョウ目（チョウ類 10種）

チョウ類は、アオスジアゲハ、モンシロチョウ、キチョウ、ヒメウラナミジャノメ、ヒカゲチョウ、クロヒカゲ、サトキマダラヒカゲ、アサマイチモンジ、ホソバセセリ、キマダラセセリの10種を確認しました。ガ類の成虫で種名が分かったのは、ウラベニエダシヤクだけでした。



ホソバセセリ

カマキリ目など

オオカマキリの幼虫を14個体、チョウセンカマキリの幼虫を2個体、ヒメカマキリの幼虫を1個体、確認しました。そのうち、オオカマキリの幼虫1個体が脱皮中でした。バッタ目の鳴き声を6種聞き、そのうち、ナツノツツレサセコオロギの鳴き声を録音しました。



オオカマキリ幼虫

トンボ目

大井谷池でシオカラトンボとチョウトンボ、牛神池でベニイトトンボ、キイトトンボ、クロイトトンボ、シオカラトンボ、チョウトンボを確認しました。相変わらずキイトトンボが多く、ベニイトトンボは1個体だけでした。デジカメをマクロに切り替える前に逃げられたのが残念です。



ベニイトトンボ

ハエ目

クズには、クズハトガリタマフシというタマハエがつくる虫こぶが出来ていました。スキバツリアブは珍しい種ではありませんが、これまで自然遊学館に標本がありませんでした。馴染みの種以外では、牛神池で大型・橙色のハナアブの仲間が数匹飛んでいました。



スキバツリアブ

「千石荘」昆虫調査速報（2014年8月）

2014年8月12日 天候：晴れ 調査者1名

台風12号が過ぎ去った後で、落枝や倒木が多くありました。クマゼミ、アブラゼミ、ニイニゼミのほか、ツクツクボウシも鳴き始めました。エンマコオロギの鳴き声も聞こえ、秋が近いはずなのですが、かなり蒸し暑いです。



チョウ目（チョウ類 7種）

チョウ類は、ナミアゲハ、モンシロチョウ、ヒメウラナミジャノメ、ヒカゲチョウ、サトキマダラヒカゲ、ウラギンシジミ、ヤマトシジミの7種を確認しました。ガ類では、これまで自然遊学館に標本がなかったクロオビアツバを撮影し、採集することができました。



クロオビアツバ

カマキリ目

オオカマキリの幼虫を4個体、ハラヒロカマキリの幼虫を1個体確認した他、ヒメカマキリ属の幼虫を1個体確認しました。体長は4mm程度で、心化したての1齢のサツマヒメカマキリの幼虫です。大阪府下では、このカマキリだけ卵ではなく、幼虫で越冬します。



サツマヒメカマキリ幼虫

トンボ目

牛神池でナニワトンボ、ベニイトトンボ、キイトトンボを確認しました。ナニワトンボは大阪府レッドデータブックの改定で、絶滅危惧Ⅱ類にランクアップされました。キイトトンボもランク外から準絶滅危惧になりました。水辺の環境の危機が増大しているのでしょうか。



ナニワトンボ

バッタ目

キリギリスがさかんに鳴いています。生体展示用に2個体採集しました。エンマコオロギの鳴き声がちらほら聞こえます。アオマツムシの幼虫も撮影できました。ショウリョウバッタとクルマバッタモドキは幼虫と成虫と混じっている時期でした。



キリギリス

「千石荘」昆虫調査速報（2014年9月）

2014年9月16日 天候：晴れ 調査者1名

ゼミの鳴き声はツクツクボウシが多く、ニイニゼミとチツチゼミも少し鳴いていました。まだ稲刈りは始まっていません。右の写真からも分かるように、夏から秋への境目に来ているのだと思います。



チョウ目（チョウ類 11種）

チョウ類は、ナミアゲハ、キタキチョウ、ヒメウラナミジャノメ、ヒカゲチョウ、サトキマダラヒカゲ、アサマイチモンジ、コムスジ、ツマグロヒョウモン、ヤマトシジミ、イチモンジセセリ、キマダラセセリの11種を確認しました。ガ類では、ヨツスジヒメシンクイを採集しました。



ヨツスジヒメシンクイ

バッタ目

クサヒバリ、アオマツムシ、カネタタキの鳴き声が樹上から盛んに聞こえます。正午すぎなのに、エンマコオロギ、ハラオカメコオロギ、ツツレサセコオロギ、カンタンなどの鳴き声も草の間から聞こえます。ほとんどは成虫になりましたが、ツチイナゴだけ幼虫で確認しました。



ウスイロササキ

トンボ目

水田の稲穂の上をクロスジギンヤンマが飛んでいました。アカネ（アカトンボ）の仲間も飛んでいますが、種までは分かりません。ウスバキトンボはそれほど多くありません。牛神池でナニワトンボを撮影していると、左手に止まってきました。手にとると、とても小さく見えます。



ナニワトンボ

ハチ目

常連のアリのほか、キンケハラナガツチバチとバラハキリバチの写真を撮ることができました。ツチバチは意外と大きなアゴを持っていることが分かりました。



キンケハラナガツチバチ



バラハキリバチ

付図4（左上）. 千石荘昆虫調査速報（2014年7月）

付図5（右上）. 千石荘昆虫調査速報（2014年8月）

付図6（左下）. 千石荘昆虫調査速報（2014年9月）

「千石荘」昆虫調査速報（2014年10月）

2014年10月7日 天候：晴れ 調査者1名

稲刈りはまだでした。樹上からはクサビバリの澄んだ鳴き声がします。セミの鳴き声は聞こえませんでした。アカトンボの写真が撮れるかなと期待して行ったのですが、リスアカネしか見つけれませんでした。



チョウ目（チョウ類 6種）

チョウ類は、モンシロチョウ、キタキチョウ、ツマグロヒョウモン、ヤマトシジミ、ウラギンシジミ、イチモンジセセリの6種を確認しました。ガ類では、キノコヒモミノガの糞とマエアカスカシノメイガを確認しました。



モンシロチョウ

バッタ目

クサビバリ、アオマツムシ、カネタタキの鳴き声が樹上から聞こえます。草の間からは、オナガササキリ、ウスイロササキリ、カンタン、地面からは、エンマコオロギ、ハラオカメコオロギ、マダラスなどの鳴き声が聞こえます。冬の展示用に、ツチイナゴを4匹採集しました。



クサビバリ

カメムシ目

数が多いのはツマグロオオヨコバイとマルカメムシだけで、その他は1匹か2匹の確認です。シロヘリカメムシ、ムラサキシラホシカメムシ、ミナミアオカメムシ、チャバネアオカメムシなどを確認しました。珍しい種ではありませんが、ヒメホシカメムシの幼虫を初めて見ました。



シロヘリカメムシ

コウチュウ目

コクワガタがクヌギの樹幹の隙間に隠れていました。コアオハナムグリがヒヨドリバナの蜜を吸っていて、クチナガチョッキリのメス成虫がアオツツラフジの実に産卵していました。その実はまだ小さなもので、そういう時期から産卵することが分かりました。



クチナガチョッキリ

「千石荘」昆虫調査速報（2014年11月）

2014年11月13日 天候：晴れ 調査者1名

稲刈りは終わっていました。寒くなった上に、フユイチゴの赤い実が成っていたりして、もうすぐ冬だと思わせられます。カクレミノの落ち葉で、グー、チョコキ、パーを表現してみました。



チョウ目（チョウ類 1種）

風が強かったせいか、チョウ類は、モンシロチョウの1種だけの確認となりました。成虫で冬を越すチョウをまったく確認できなかったのが残念です。ガ類では、シロオビノメイガ、キノコヒモミノガの糞、ゴマフリドクガの幼虫を確認しました。



ゴマフリドクガ幼虫

バッタ目

クサビバリやエンマコオロギの鳴き声が聞こえますが、声は弱々しいものでした。その他、ツチイナゴやオンブバッタを確認しました。大阪府の海岸沿いに分布を広げているアカハネオンブバッタは、まだ千石荘では確認されていません。



オンブバッタ

カマキリ目

成虫は、ハラヒロカマキリのメスだけを確認しました。お腹が膨れていたため、これから産卵するものと思われる。その他、メダケの小枝にオオカマキリの卵囊が産み付けられているのを確認しました。これから植物の葉が落ちると、もっと卵囊を見つけやすくなると思います。



ハラヒロカマキリ

ハエ目

写真は、ヨモギにできた虫こぶで、ヨモギシロケタマフシといえます。ヨモギシロケタマハエがヨモギに寄生して出来ます。その他、ホソヒラタアブ、オオハナアブ、ハナアブ属（*Syrphus*属）の一種、ヒゲナガヤチハエ、キアシフンハエを確認しました。



ヨモギシロケタマフシ

「千石荘」昆虫調査速報（2014年12月）

2014年12月2日 天候：くもり 調査者1名

ノゲシやホトケノザの花はまだ咲いていました。舗装道路沿いに点々とあるイロハモミジはそれぞれ赤く色づいていますが、少ないので目立ちません。落葉には黄色のものと赤色のものが混じていました。



チョウ目（チョウ類 0種）

チョウ類はまったく確認できませんでした。いつものサクラの枯木にキノコヒモミノガの糞を確認しただけに留まりました。4月から12月まで毎月1回調査してきて、チョウ類は19種確認しました。里山としては少し物足りない種数だと思います。



キノコヒモミノガ糞

カマキリ目

オオカマキリの卵囊だけ確認しました。4月からの記録をまとめると、オオカマキリ、チョウセンカマキリ、ハラヒロカマキリ、ヒメカマキリの4種を確認したことになります。たぶん、コカマキリもいると思いますが、月に1回の調査ではこういう結果になることもあるのでしょう。



オオカマキリ卵囊

カメムシ目

ほとんどのカメムシは越冬準備で隠れてしまいましたが、このウスモンミドリカスミカメだけは水田の周辺で多数活動していました。その他、ニッケイトガリキジラミがヤブニッケイにつくったニッケイハミャクイボフシという虫こぶを確認しました。



ウスモンミドリカスミカメ

キノコ類

虫のシーズンは終わり、キノコのシーズンも終わりがけなのですが、まだ虫よりは見られます。写真、コナラの切り株の向かって左側はカイガラタケ、右側はハカワラタケです。その他、チャカイガラタケ、ウスムラサキシメジ、シロツルタケなどを確認しました。



サルノコシカケの仲間

付図7（左上）. 千石荘昆虫調査速報（2014年10月）

付図8（右上）. 千石荘昆虫調査速報（2014年11月）

付図9（左下）. 千石荘昆虫調査速報（2014年12月）

「千石荘」昆虫調査速報（2015年4月）

2015年4月16日 天候：晴れ 調査者1名

クサイチゴの白い花が目立ちます。すでに実が成りかけているものもありました。その他、アケビ（右の写真）、クサノオウ、ムラサキケマン、ヘビイチゴなどの花が咲いていました。すでに実が成っているイヌビワもありました。



チョウ目（チョウ類 3種）

モンシロチョウ、テングチョウ、サトキマダラヒカゲの3種を確認しました。モンシロチョウとサトキマダラヒカゲは蛹で、テングチョウは成虫で冬を越します。テングチョウは泥から水と塩分を吸っていました。ガでは、キノコヒモミノガの糞（みの：幼虫）を確認しました。



テングチョウ

バッタ目

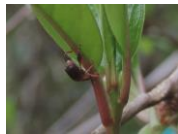
ヤブキリ幼虫とツチイナゴを目視で確認し、鳴き声でカヤヒバリとキンヒバリを確認しました。カヤヒバリとキンヒバリは同属で、姿形が似ているのですが、鳴き声はキンヒバリの方が、美しい音色が長く続くので、区別することができます。また、キンヒバリは水辺の環境を好みます。



ヤブキリ幼虫

コウチュウ目

ヒメクロオトシブミ、モモトカミキリモドキ、ナナホシテントウという馴染みの種のほか、コブノコギリソウムシという自然遊学館に標本のなかった種を確認しました。物の先を小枝につけて後脚の腿節の先を横に張り出していると、植物の「芽」のように見えました。



コブノコギリソウムシ

ハチ目

巨大なオオスズメバチの女王が、低音の羽音をさせて、ネザサの群落から飛び出してきました。アリ類は4種、ハナバチ類は2種を確認しました。いずれもよく見る種です。写真は、クサノオウの花に来ていたゼンマイハバチの仲間です。



ナガゼンマイハバチ

「千石荘」昆虫調査速報（2015年5月）

2015年5月6日 天候：晴れ 調査者1名

クサイチゴには赤い実が成りました。牛神池のアンペライの小穂には花が咲きました（右の写真）。外来種のエフクレタヌキモの黄色い花も目立ちます。気温もそれほど高くなく、蚊も少ないので、調査には良い時期です。



チョウ目（チョウ類 10種）

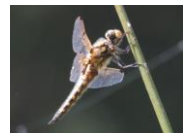
モンキアゲハ、クロアゲハ、ナガサキアゲハ、アオスジアゲハ、モンシロチョウ、ヒメウラナミジャノメ、コムシジ、キマダラセセリ、ベニシジミ、ダイミョウセセリの10種のチョウを確認しました。ガでは、ヒロバカリエダシヤクの幼虫が目立ちました。



イヌビワハマキモドキ

トンボ目

クロイトトンボ、クロスジギンヤンマ、シオカラトンボのほか、大阪府レッドリストで準絶滅危惧に指定されているヨツボシトンボを確認しました。翅の「4つの紋」を撮りたかったのですが、この角度でしか写真を撮らせてもらえませんでした。



ヨツボシトンボ

カマキリ目・バッタ目

カマキリ目は、オオカマキリの卵囊と幼虫だけを確認しました。バッタ目では、成虫は、カヤヒバリ（鳴き声）とツチイナゴ、幼虫はヤブキリとキリギリスを確認しました。4月には、牛神池の岸辺でキンヒバリの鳴き声があったのに、今回は聞きませんでした。



オオカマキリ幼虫

コウチュウ目

まだクスギの木では樹液が出ていません。草の花や葉の上で確認したもののばかりです。ウスチャコガネ、クスノチビタマムシ、アカアシオオクシコメツキ、ヒグナガハナノミ、キクスイカミキリ、クロウリハムシなど、馴染みのものは12種を確認しました。



オオニジュウヤホシテントウ

「千石荘」昆虫調査速報（2015年6月）

2015年6月4日 天候：晴れ 調査者1名

ドクダミの白い花が目立ちます。クサノオウの花の時期は過ぎたようです。クサイチゴの赤い実も減りました。水が張られた水田の上をツバメが飛び回っていますが、モンシロチョウは餌の対象ではないようです。



チョウ目（チョウ類 14種）

ナミアゲハ、クロアゲハ、アオスジアゲハ、ヒメジャノメ、ヒカゲチョウ、コムシジ、イシガケチョウ、ツバメシジミ、テングチョウ、キマダラセセリなど、14種のチョウを確認しました。ガ類では、ヒロードハマキの交尾（右の写真）を撮影しました。



ヒロードハマキ

トンボ目

クロスジギンヤンマの産卵を撮影できました。その他、キイトンボ、クロイトトンボ、ヨツボシトンボ、シオカラトンボ、ショウジョウトンボ、コシアキトンボを確認しました。キイトンボとヨツボシトンボは、大阪府レッドリストで準絶滅危惧に指定されています。



クロスジギンヤンマ

カマキリ目・バッタ目

カマキリ目では、ハラヒロカマキリの幼虫とオオカマキリの幼虫を確認しました。ハラヒロカマキリはすべて1齢幼虫でした。バッタ目では、ヤブキリ幼虫、ナツノツツレサセコオロギ、カヤヒバリ、キンヒバリ、ツチイナゴ、ショウリョウバッタ幼虫を確認しました。



ハラヒロカマキリ幼虫

コウチュウ目

まだ少ししか樹液が出ていないクスギに、クチキムシとユミアシゴミムシダマシが来ていました。その他、コアオハナムグリ、ヒメトラハナムグリ、マメコガネ、クスノチビタマムシ、キマワリ、クロウリハムシ、オジロアシナガソウムシなどを確認しました。



ユミアシゴミムシダマシ

付図 10（左上）. 千石荘昆虫調査速報（2015年4月）

付図 11（右上）. 千石荘昆虫調査速報（2015年5月）

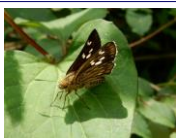
付図 12（左下）. 千石荘昆虫調査速報（2015年6月）

「千石荘」昆虫調査速報（2015年7月）

2015年7月2日 天候：くもり／晴れ 調査者1名
梅雨の晴れ間の調査となりました。花は少なく、ヒメジョオン以外は、クサノオウの花を少し見る程度でした。キノコ類はたくさん生えていましたが、写真のキイロイグチ以外は、朽ち過ぎていて、種が分かりませんでした。



チョウ目（チョウ類 10種）
ナガサキアゲハ、アオスジアゲハ、モンシロチョウ、キタキチョウ、ヒメウラナミジャノメ、コムスジ、キタテハ、ツバメシジミ、ヘニシジミ、コチャバナセセリの10種のチョウを確認しました。ガ類では、クロスジキンノメイガの幼虫やホタルガなどを確認しました。



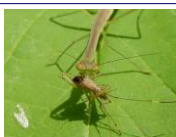
コチャバナセセリ

バッタ目
キリギリス、ヤブキリ、カヤヒバリ、キンヒバリ、シバズ、マダラスズ、ナツノツツシサセの鳴き声を聞きました。ナツノツツシサセは、自然遊学館に標本がないのですが、またしても採集に失敗しました。バッタ類では、ツチイナゴやハラヒシバッタを確認しました。



ヤブキリ

カマキリ目
オオカマキリの幼虫を12個体確認し、そのうちの1個体は、ヒメクモヘリカメムシを摂食中でした。触角の途中に白い節があるのが、このカメムシの特徴です。写真の左下に写っている後翅のかけらから成虫と判断しました。ハラヒロカマキリの幼虫は2個体を確認しました。



オオカマキリ幼虫

カメムシ目
ニイニゼミが3個体鳴いていました。ヌルデやヤマハゼなどのウルシ科の植物には、決まってハゼアブラムシとアミメアリのコロニー（集団）がいます。ヌルデには、できかけのヌルデミミフシ（虫こぶ）がありました。ヌルデシロアブラムシがつくる虫こぶです。



アワダチソウグンバイ

「千石荘」昆虫調査速報（2015年8月）

2015年8月4日 天候：晴れ 調査者1名
クヌギの樹液にカブトムシが来ていました。屋の調査でカブトムシのオスを見たのは久しぶりです。夏まっ盛りという感じですが、クマゼミ、アブラゼミ、ニイニゼミに混じって、ツクツクボウシも鳴き始めました。



チョウ目（チョウ類 12種）
チョウ類は、ナミアゲハ、ナガサキアゲハ、アオスジアゲハ、キタキチョウ、サトキマダラヒカゲ、ホシミスジ、コムスジ、ゴマダラチョウ（右の写真）、ツマグロヒョウモン、テングチョウ、ヤマトシジミ、ヘニシジミの12種を確認しました。



ゴマダラチョウ

バッタ目
水田の周りの草むらで、キリギリスが盛んに鳴いていました。日陰のない草むらでの撮影はたいへんです。自然遊学館での展示用にオスを1匹採集しました。ショウリョウバッタ、コバネイナゴ、ウスイロササキリが成虫になり、クサキリとオナガササキリは幼虫でした。



キリギリス

トンボ目
ウスバキトンボが飛ばずに休憩していました。垂れ下がって止まるタイプです。アオイトトンボ、キイトンボ、ベニイトトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、リスアカネ、コシアキトンボを確認しました。コシアキトンボはなかなか止まってくれませんでした。



ウスバキトンボ

ハチ目
キボシアシナガバチが地上20cmの草間に巣を作っていて、その周りを働きバチが飛び回っていました。路上のニイニゼミの死体にトゲアリが集まっていたのに、別の普通にいるアリだと勘違いして、簡単に撮影を終えてしまいました。帰館して気づいても後の祭りでした。



キボシアシナガバチ

「千石荘」昆虫調査速報（2015年9月）

2015年9月1日 天候：くもり 調査者1名
池の堤にノアズキの花が咲いていました。北田誠さんに教えてもらった場所です。雑木林の中では、シロオニタケ、ヘニイグチ、キイロイグチ、カレエダタケといったキノコを見ました。水田のそばで、トビの羽根を拾いました。



チョウ目（チョウ類 9種）
チョウ類は、ナミアゲハ、キタキチョウ、ヒメウラナミジャノメ、サトキマダラヒカゲ、コムスジ、ムラサキシジミ、ヤマトシジミ、イチモンジセセリ、キマダラセセリを確認しました。ガ類は、シラホシトリバやカノコガなどを確認しました。



キマダラセセリ

バッタ目
ノアズキの咲いていた場所で、ショウリョウバッタモドキを確認しました。明るい開けた草むらが好きな種で、千石荘の中でも減っています。動きが素早く、写真は撮れませんでした。鳴く虫の主役は、キリギリスからエンマコオロギへ移り変わる途中という感じでした。



エンマコオロギ

カマキリ目
オオカマキリとサツマヒメカマキリの2種を確認しました。サツマヒメカマキリは、幼虫で越冬して、春に成虫になり、夏に交尾産卵して、この時期にふ化します。写真は1齢か2齢の小さな幼虫です。それが何かを捕食していたのですが、餌が小さすぎて何なのかが分かりませんでした。



サツマヒメカマキリ

カメムシ目
アブラゼミ、ニイニゼミ、ツクツクボウシ、チツゼミが鳴いていました。ヌルデミミフシという虫こぶの中には、まだヌルデシロアブラムシが入っているようです。その他、ツマグロオオヨコバイ、オオヨコバイ、ベッコウハコロモ、アカスジカスミカメなどを確認しました。



ホオズキカメムシ

付図 13（左上）. 千石荘昆虫調査速報（2015年7月）

付図 14（右上）. 千石荘昆虫調査速報（2015年8月）

付図 15（左下）. 千石荘昆虫調査速報（2015年9月）

「千石荘」昆虫調査速報（2015年10月）

2015年10月6日 天候：晴れ 調査者1名

水田では稲が実っています。池の堤ではツリガネニンシンの花が咲き（右の写真）、ノアスキの実が成っていました。その他、ツククサ、キツネノマゴ、クサノオウ、ホトケノザ、イヌタデ、ヒヨドリバナなどの花を見ました。



チョウ目（チョウ類 10種）

チョウ類は、ナミアゲハ、モンシロチョウ、キタキチョウ、コムシジ、ツマグロヒョウモン、ウラギンシジミ、ムラサキシジミ、ヤマトシジミ、イチモンジセセリ、アサギマダラを確認しました。ガ類では、ホタルガやクロスウスキエダシヤクなどを確認しました。



ウラギンシジミ

バッタ目

樹上からは、クサヒバリ、カネタタキ、アオマツムシ、草上では、オナガササキリやカンタン、地面からは、エンマコオロギ、ハラオカメコオロギ、マダラスなどの鳴き声が聞こえます。ツチイナゴは成虫になりました。その他、マツムシやマダラバッタなどを確認しました。



ササキリ

カマキリ目

オオカマキリ（1♂6♀1卵囊）、コカマキリ（4♀）、ハラビロカマキリ（1♀2卵囊）を確認しました。ハラビロカマキリの1卵囊には、幼虫が卵囊の中身と殻を摂食するカマキリタマゴカツオブシムシの♀が産卵に来ていました（右の写真）。生活史はカマキリと違って年2化です。



ハラビロカマキリ卵囊

ハチ目

ヒヨドリバナの花にたくさんのキンケハラナガツチバチが集まっていた。草上などでアリの活動はかなり減り、ウメマツオオアリだけを確認しました。その他、ルリチュウレンジ、セグロアシナガバチ、コガタスズメバチ、セイヨウミツバチを確認しました。



キンケハラナガツチバチ

「千石荘」昆虫調査速報（2015年11月）

2015年11月4日 天候：晴れ 調査者1名

稲刈りは終わりました。ホトケノザ、クサノオウ、イヌタデ、アオミスなどの花が咲いていました。今年の調査で、シヨウリョウバッタモドキ（右の写真）とクルマバッタの生息場所が分かったことは、大きな収穫の一つです。



チョウ目（チョウ類 4種）

チョウ類は、モンシロチョウ、キタキチョウ、キタテハ、ウラナミシジミを確認しました。右の写真は、モンシロチョウがコセンダングサから吸蜜しているところです。ガ類では、シロオビノメイガやキノコヒモミノガ（糞）などを確認しました。



モンシロチョウ

バッタ目

樹上からはクサヒバリやカネタタキ、草上ではオナガササキリやカンタン、地面からはエンマコオロギやハラオカメコオロギなどの鳴き声が聞こえます。カンタンの鳴き声を追っていくと、別の交尾ペアを見つけました。オスの背にある分泌腺をメスが舐めているところでした。



カンタン

カメムシ目

林縁では、毎年のように、ホシヒメヨコバイの群飛が見られます。写真は、セイタカアワダチソウの花に集まっていたアオモンツノカメムシの幼虫です。1個体だけ成虫がいました。その他、オオヨコバイ、ヨコツナサシガメ幼虫、イトカメムシ、オオホシカメムシなどを確認しました。



アオモンツノカメムシ

ハエ目

多数のハエ目を見ましたが、種名が分かるのは僅かです。写真のキンバエの仲間も同定は困難です。群飛しているユスリカの種名も分かりません。すぐに種名が分かったのは、ツマグロキンバエ、オオクロバエ、ホソヒラタアブ、オオハナアブ、キコシハナアブ、ヒゲナガヤチバエです。



キンバエの一種

「千石荘」昆虫調査速報（2015年12月）

2015年12月1日 天候：晴れ 調査者1名

11月が暖かったので、まだ赤い実がチラホラありました。写真はサネカスラです（別名：ピナンカスラ）。その他にも、ナナメノキ、ノイバラ、サルトリイバラなどの赤い実、カキやカラスウリの橙色の実を見ました。



チョウ目（チョウ類 2種）

チョウ類は、ヒメアカタテハとムラサキシジミを確認しました。右の写真はウスアオリンガです。大阪府レッドリスト2014で「準絶滅危惧」に指定されています。幼虫の餌植物はアキニシです。その他、クロスジフユエダシヤクと、チャミノガとキノコヒモミノガの糞を確認しました。



ウスアオリンガ

バッタ目

ツチイナゴとセスジツユムシが体温を上げるために「日光浴」していました。ツチイナゴの成虫は冬を越して、春に繁殖するまで生きなければいけません。樹上からはカネタタキ、草上ではオナガササキリ、地面からはシバズとハラオカメコオロギの鳴き声を聞きました。



ツチイナゴ

カメムシ目

カメムシ目は、他のグループに比べて成虫で越冬する種の割合が高く、冬前は目立つことになります。写真はクロスジホソサシヨコバイで、頭は左です。翅先の目玉模様で、鳥の目を欺こうとしているのかもしれない。その他、アオモンツノカメムシ、イトカメムシなどを確認しました。



クロスジホソサシヨコバイ

外来カスミカメ

この冬の虫の話題と言えば、この外来カスミカメでした。クスノキの葉に付く、東南アジア原産の外来種で、南大阪が発生の中心だと思われます。遊学館に最初に持ち込まれた標本は岸和田産で、カメムシ目の分類の専門家である安永智秀先生に同定を依頼しているところです。



外来カスミカメ

付図 16（左上）. 千石荘昆虫調査速報（2015年10月）

付図 17（右上）. 千石荘昆虫調査速報（2015年11月）

付図 18（左下）. 千石荘昆虫調査速報（2015年12月）